

女子団体優勝の金武卓球道場A

県総合運動公園体育館



金武卓球道場A連覇

小学生卓球予選男子はコザク

卓球の第28回全国ホープス大会兼2010年度全日本選手権大会(ホープス・

カブ・パンピの部)県予選は18日、沖縄市の県総合運動公園体育館で行われた。

団体男子は、コザ卓球クラブ(前原由海、森朗倅、川上天和、喜納漢裕)が3-

2で金武卓球道場Aに競り勝ち優勝。同女子は金武卓球道場A(城間春香、嘉数智陽、大城晏菜)が3-1で那覇卓球クラブを破り制した。

個人のホープス男子は喜納、同女子は泉川文香(チ

ームファースト卓球クラブ)が頂点。カブ男子は島啓介(那覇卓球クラブジュ

ニア)、同女子は中村陽菜(同)が栄冠。パンピ男子

は西野真聖(ハッピー卓球クラブ)、同女子は新垣春佳(同)が制した。

団体の優勝チームは全国ホープス大会(8月・東京)に、個人各部の上位2

人は全日本選手権大会(7月・兵庫)の出場権を獲得した。ホープスの部3位の宮里州(ハッピー卓球ク

はペンホルダー枠で出場できる。

(記録は後日掲載します)

全国1勝目指す

○…女子の金武卓球道場Aは2連覇。主将の城間春香は「いい勝負で勝ててよかった」と笑みを浮かべた。

1勝1敗で迎えたダブルス。嘉数智陽・大城晏菜組は実力的には五分の相手に、「心を一つにして頑張った」。低く短い返球で強

打を防いだ。城間はシングルスで2勝を挙げ優勝に貢献。「相手の粒高の変則ラリーにも、考えながらプレーできた」と納得の表情。昨年の全国大会は予選リーグで全敗だったが、「今年最低でも1勝」と意気込んだ。

仲間の応援に力

○…最終戦までもつれこんだ接戦を制した男子コザ卓球クラブ。外間政克監督は「金武卓球道場は10回戦

つたら7回は負けるぐらいの相手。よく頑張った」と選手をたたえた。

コザは第1シングルスで落とし第2シングルの森朗倅も0-2と劣勢に立たされた。だが、森は「負けたと思っただけ、仲間の応援で力がわいた」。後がない状況でボールを慎重につき、

逆転勝ちで後につないだ。相手との相性を考え、最終戦に回したエースの喜納漢裕がきっちり勝って優勝。外間監督は「このオールドしかなかった」と、ほっとした様子だった。